

# 新入会員オリエンテーション開催

去る6月29日(火)、米子食品会館にて19時より平成10年度第2回新入会員オリエンテーションが行われた。当日は、宮廻会長、堀田副会長、景川幹事、藤森幹事、谷口幹事並びに事務局の足立米子支所長代理を迎え、平成11年1月以降に入会した12名(うち1名欠席)の参加のもと武海総務委員長の司会で進行された。

堀田副会長による開会宣言、綱領唱和のあと宮廻会長から「皆さん個人を通して会社が判断される。だから、常に社会の代表であるということを自覚し、派遣してくれている会社の期待に応えられるよう頑張りなさい。」との会長挨拶をいただいた。そのあと全員で自己紹介を行い、講義へと移っていった。

講義では、先ず初めに宮廻会長から平成10年度事業計画についての詳細な説明があった。次に景川幹事から組織図を用いて西部青年中央会の輪郭についての説明をうけ、足立米子支所長代理からは親会である中小企業団体中央会の紹介があった。そのあと藤森幹事から西部青年中央会の今日までの歩みを小冊子および20周年記念ビデオ、夢みなど博ビデオ等を使って説明をうけた。最後に谷口幹事から会則、規約等についての補足説明をうけた。質疑応答のあと研修課題の確認をして、堀田副会長の閉会宣言をもって20時50分閉会された。

今オリエンテーションを振り返って、武海総務委員長長の「中央会々員として、ジャケット、バッジに誇りをもって着用しなさい。」という言葉に、会員としての自覚不足をズバリ指摘されたような気がして一同背筋が伸びる思いがした。また、宮廻会長の「企業の代表者たれ」、景川幹事の「自分の所属する団体の正式名称くらいいえるようになりな

さい。」、藤森幹事の「出席・欠席にかかわらず、返事はキチンと出さない。」、谷口幹事の「中央会を謳歌するには、委員会・例会を楽しみなさい。」との金言は今後の中央会活動においての心強い羅針盤となるはずである。あたりまえのことといえばあたりまえ。ただ、あたりまえのことをあたりまえにこなすことがいかに難しいことか。それができてこそはじめて中央会々員としてまわりから認めていただけるものなのだと強く確信した。

OB会員の方々、役員をはじめとされる現役会員の方々から新入会員へと受け継がれる会に対しての姿勢は、螺旋の糸を紡ぎながら次の新入会員へと引き継がれていくのであろう。これこそ、堀田副会長が次年度のスローガンに掲げられている『雑(つなぐ)』の精神そのものではなからうか。

いずれにせよ、新入会員12名にとって、今回のオリエンテーションが中央会活動に邁進するための本当の意味での出発点となったことは間違いない。(広報/後藤公平)



## 聞いてごしない Part 13

中央会各会員の皆さん、25周年記念式典、トライアスロン等ご苦労さまでした。各担当の方々は大変な思いをされた事だと思います。しかし、何でここまでするのでしょうか。

他団体ですと中央との連携で1年間の方針を決定されるそうですが、中央会は独自の発想と行動力で自らの活動を100%決定します。25周年で担当された方々は当初あそこまでされるつもりだったのでしょうか。担当でもないのに気がついたらスタッフになっている皆さんは命令を受けたのでしょうか。あるOBの方が見にこられて「やり方は変わっても中央会の伝統だなぁ。」とおっしゃられました。この場合の伝統とは自らの事業はもちろんの事、公の場で自分の出来る事を考え、人を思いやる心と感謝の念を抱いて活動する心を継承して欲しい。そう聞こえました。良き伝統を重んじ、分科会にでた提言を色々なところで論議してみたいものです。特に入会して1~2年の方、感想でなく主張して頂きたいものです。それが自分自身に何かの形で返ってきます。10年(途中フラフラ)会員の私が言うのですから間違いありません。25周年を迎えて「伝統」と言う言葉を次世代にむけて善し悪しの論議を取り沙汰される昨今、「あなたたちが主役だよ。」と言いたいです。

(夏バテアニマル)

### 8月例会案内

とき 平成11年8月20日(金) 18:30~  
ところ ホテルサンルート米子  
講師 鳥取県米子警察署長 井田 安昭氏  
演題 「最近の治安情勢について」  
担当 げんこつ委員会

### 8月役員会報告

8月定例役員会が平成11年8月2日(月)、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 8、9月例会開催の件
- (2) ジュニアトライアスロンの件
- (3) 中小企業全国大会参加の件
- (4) その他

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

### 編集後記

総会、25周年分科会、トライアスロン皆生大会と、怒涛の7月がすぎ、暑さの中の編集作業。なかなか進まない。一年間このペースかな?とは言っても休刊なしの会報。雑いでゆかないといけない。新広報委員会のスタート、試行錯誤しながら頑張っただけかと思いたいです。皆様の協力をお願いします。

25th Anniversary



第25号 1999. 8.

発行人:鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 堀田 収 編集責任者 小林 慎一 印刷所 東京印刷所

## ご挨拶



第25代会長 堀田 収

(スローガン)  
雑(つなぐ)  
心の情報交換「心の共有化」  
変化に対応できる「構造改革」

第25期会長を務めさせていただきます。どうぞ1年間、よろしくお願い致します。

本年、鳥取県西部中小企業青年中央会は、先輩の皆様方のたゆまぬご努力と、親会である鳥取県中小企業団体中央会を始めとして、多くの皆様方のご支援により、めでたく25周年を迎えることができました。本当に、有難うございました。21世紀に向かって、当会がこれからも、その目的であります中小企業の活性化、特に中小企業の人材育成の面でお役に立ち、そのことを通じて少しでも地域社会に貢献したいと決意を新たにしています。大変未熟な私たちではありますが、全力を尽くす所存でございますので、変らぬご指導ご鞭撻を、お願い申し上げます。

さて、我々中小企業をとりまく社会、経済状況に目を向けますと、循環的变化ばかりではなく、大きな構造的変化を迎えているように思います。鳥取県西部中小企業青年中央会も25周年を迎えた本年、会の設立から今日に至るまでの歴史をよく勉強し、現在ある青年中央会を見つめなおして今一度、あるべき姿とこれからの方向性をみんなで考えてみる機会の1年にしたいと考えています。

21世紀を目前にして、グローバルな構造変化の中で我々青年中央会が、自ら自己革新を行い、変化に対応できるか問われています。また、我々会員自身、企業そして家庭も、変化に対応できる資質を求められています。

我々青年中央会は決して変えてはならない伝統、風土はさらに磨きをかけながら、青年中央会の心を21世紀につなぎたいと思います。また同時に、時代に適合すべく、革新すべきは断行する勇気を合わせ持ちたいと思います。

これから、皆様方には大変お世話になりますが、1年間、改めまして、よろしくお願い致します。

## 副会長抱負



広域ビジョングループ担当 浜田 一哉

本年度、副会長を拝命致しました浜田一哉です。未熟で頼りのない若輩者の私ではございますが、1年間精一杯がんばります。よろしくお願い致します。

青年中央会の素晴らしいところは、何と言っても綱領にあげられている3原則を伝統としてその通りに実践されていることにあると思います。会員個々を尊重し、ある時はわがままを押し通す度量を持ったこの青年中央会気質の象徴が、先の25周年事業ではなかったかと思えます。1ヶ月で2度おいしいこの重責を頂きました堀田会長そして各委員長をはじめメンバーの皆さんと少しでも心を「雑く」ことが出来るよう努力したいと思います。



ビジネス・マネージメントグループ担当 奥森 隆夫

この度、堀田会長のもと、副会長を務めさせて頂くことになりました奥森です。

一昨年度経営委員長を務めさせて頂き人の和と責任がどれほど大事なことが痛感いたしました。その矢先に副会長を仰せつかり、不安と気があが錯しているところです。

今年度、西部青年中央会のテーマ「雑(つなぐ)」を心に刻み25年間のOB、会員の皆様努力に少しでも恩返しできれば幸いです。

担当委員会はマネジメント委員会(遠藤委員長)、ビジネス委員会(夏野委員長)で二人とも個人的な委員長さんですので、この1年間、楽しい委員会活動になるようにサポートしたいと思います。この1年間どうぞよろしくお願い致します。



グランドデザイングループ担当 小林 慎一

25周年という大切な節目に副会長を仰せつかり、その責任の大きさに正直申し上げて緊張せずにはいられません。7月10日に盛大に執り行われた25周年記念事業においても、各担当の会員方々が全力で自分の責任を果たし、他の方々の困っておられ部分を補う姿、式典の内容の深さもさることながら感激いたしました。副会長という立場から見てあらためて中央会会員であることを誇りに思います。

堀田会長の「雑(つなぐ)」の旗のもと、次世代への継承が自身の役目と信じ行動したいと思えます。1年間よろしくお願い致します。



環境・教育グループ担当 門脇 浩二

25周年を迎え、西部青年中央会に入会し、そして、副会長という大役、責任を感じています。

依然として厳しい経済状況にあります。英知、友愛、団結をモットーに、21地球委員会、げんこつ委員会の皆様と1年間勉強していきたいと思えます。



総務グループ担当 安部 利夫

西部青年中央会に入会して今年度で14年目となります。委員長、県理事をさせて頂き今年度副会長という大役を受けさせて頂きました。

これまでたくさんの良き先輩に恵まれ、ご指導頂き、また、時には叱咤激励され、今日の私があるものと思えます。

今年度の「雑」というテーマのもと残された卒業までの2年間で何をどういうふう以後に「つなぐ」かを私自身考えて行動して行きたいと思えます。

微力ではありますが、1年間堀田会長を盛り立て、皆さんと共に、中央会活動に取り組んで行きたいと思えます。

# 平成11年度新委員長抱負

## 広域ビジョングループ

地域ビジョン委員会 由島 康平

早いもので平和な(?)中央会活動も5年半が過ぎ、残り3年となった今年、堀田会長より委員長の指名を頂きました。こんな大役を私に出来るかなと思いつつも、あまり深く考えず、お受けする事にしました。私にとって、地域ビジョン委員会というのは初めての委員会なので不安も有りますが、やった事がないからこそ勉強するという楽しみもあります。

子供達が大きくなった時、この地域で生活したいと思う様な、また、生活できる様な魅力ある地域づくりをするための勉強を、時代の変化も踏まえて、浜田副会長の元、会員の皆様と一緒にやっていきたいと思っています。どうぞ1年間よろしくお願い致します。

政治行政委員会 石指 智

この度、政治行政委員長を拝命致しました、石指です。中央会に入会させて頂き4年、自分なりに試行錯誤を繰り返しながらの活動でした。これからは、浜田副会長のものと土井副委員長と共に各会員と協調性をもちながら、枠にとらわれない色々な方面・角度からユニークな発想で勉強・考察していきたいと考えます。今後、益々混迷を深める時代の中、無事に堀田丸が帰港できるべく、活力ある委員会活動になるよう、もり立てたいと思います。これからも、皆様方より一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます、新年度抱負とさせていただきます。

## ランドデザイングループ

2020ランドデザイン委員会 前田 真

今年の当委員会は昨年度のFV分科会の活動成果を発展させ、21世紀を迎えこれからの中央会活動の指針を示すことになりました。余りテーマを大きく捉えずに着実に実行できる事、確実に引き継げる内容について十分委員会内で議論を尽くしたいと思います。

そのために最初の半年間は会員一人一人の資質を見つめ直す時間を持つと思っています。相互理解、意思疎通、問題解決の方法を学び、各自の人生設計図を描きます。その延長線上に新たな中央会像が浮かび上がってくる事でしょう。

基本的な会の運営については相手の立場に立った思いやりのある発言と行動をめざします。いざれにしても経験豊富なメンバーのエネルギーを集約して充実した1年を送りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

広報委員会 追谷 和之

今年度広報委員長を務めさせて頂くことになりました追谷です。今年の広報委員会は、通常の“雄飛”“ハンサム”の発行、インターネットホームページのメンテナンスの他、25年の節目となる記念誌の発行と大変忙しい年度と思われる。昨年度南委員長のもと、飛躍的に発展した、ホームページのさらなる活用、25周年誌編集、会報の新鮮な紙面づくりと、1年間委員会委員の皆さんと模索しながら、全員参加を目指して活動していきたいと思っています。皆さんのご協力をお願い致します。

## 総務グループ

総務委員会 岡本 康朋

今年度総務委員長を務めさせて頂きます、岡本です。今年の冒頭に於て、会員相互の親睦・新人会員の意識向上。会員皆様の今以上の意識改革をお願いして行きたい。委員会・例会でのバッジ、ブレザー着用は定着しつつではあるが、例会へのハガキの返信率が100%に近づくと会員一人一人が自覚し、自分一人ぐらいいという感覚を捨てて頂き、自己の研鑽に今一度磨きをかけて下さい。堀田会長のもと、頑張りますので、会員の皆様、ご協力よろしくお願い致します。

## ビジネス・マネージメントグループ

マネージメント委員会 遠藤 健司

今年度、マネージメント委員会委員長を務めさせて頂き遠藤健司です。旧経営委員会系の新設の委員会で、私自身不慣れで不甲斐ない部分がありますが、荒木副会長を始め素晴らしい当委員会メンバーの皆さんの協力を得て、魅力ある委員会活動をしていきたいと思ひます。

さて、昨今この鳥取県西部の田舎にも平成大不況の波が押し寄せて来ております。このような時代に貴重な時間を委員会等に出席いただくメンバーの皆さんに、ひとつでも多くの事を勉強して頂き、また委員会メンバーの各企業にメリット有る内容にして行きたいと思ひます。

当マネージメント委員会のメンバーの皆さん宜しくお願ひ致します。

PS: このマネージメント委員会を通じて私自身のプライベートも1年間マネージメントしたいと思ひます。

ビジネス委員会 夏野 慎介

ビジネス委員会委員長を務めさせて頂きます夏野慎介です。皆様のご協力を仰ぎつつ、西部青年中央会25年の歴史に新たな1ページを重ねたいと思ひます。

青年中央会という素晴らしい異業種交流の場を大切に、堀田会長のビジョンを基本にビジネスを考えていきたいと思ひます。経済状況、金融情勢が急激に変化するなか鳥取県の地域経済がどうなるのか、そして会員企業のビジネスへの影響はどの程度あるのか。僅かながらでも指針となれば幸と思ひます。

## 環境・教育グループ

げんこつ委員会 植田 秀夫

本会に入会して15年目を迎えるにあたり、いよいよ卒業の残り1年もおとなしく静かに卒業していこうと心に決めていた矢先、堀田次年度会長よりTELを頂き「次年度委員長をやってくれ」の言葉を聞いた時から、私の中央会を覗く目が変わって来ました。今までのお客さんの発想から少し進んだ発想へと変化しつつある自分を感じています。最後の最後にこのような試練を与えていただいた会長にむくいる為にも1年間精一杯頑張つて、中央会活動15年の私にとっての総決算にしたいと考えております。

本年に担当する「げんこつ委員会」は昨年度からの新設ですが、今までの活動では子供の非行・いじめを中心とした「げんこつ」を中心に活動が行われてきたように思われます。ところが、この非行問題は子供だけの問題ではなく大人が大きく左右して起こっている社会現象なのです。

今、大人達が子供に対してこの問題に対してあげられることはなんでしょうか。

今、子供達がおかれている学校・家庭そして社会をもっと考えてみるべきではないでしょうか。「げんこつ」は子供だけに必要ではない。

そこで、今年度の委員会は「教育」をテーマとした社会での教育、学校教育、家庭教育の3部門より色々な角度から勉強していきたいと考えています。

21地球委員会 萬田 寿夫

今年度、21地球委員会委員長を務めさせて頂きます。萬田寿夫です。よろしくお願い致します。プレッシャーに押しつぶされそうな毎日ですが、せっかく頂いた素晴らしいチャンスですので、もう一回人間的に飛躍出来る、いつも自身に問いかけながら1年間精一杯頑張ります。会員の皆様のご協力よろしくお願い致します。

# の闘い!

## ・ボランティア



野嶋 功

### 【今大会の艱難辛苦】

「灼熱」という言葉がキャッチフレーズだったはずの皆生大会も、ここ2、3年ははらしくない天候の大会が続いております。加えて今年はず中冷たい雨にも見舞われたにも関わらず、心強い声援をいただき全参加者を代表して感謝申し上げます。

年を重ねる毎にトレーニングに回すことのできる時間が少なくなり、今年に至っては総トレーニング量はバイク300キロ、マラソン70キロ、(6~7月)と過去最低だった昨年の半分以下という驚異的な数字での挑戦となり、正直言って初出場の時より不安でした。そんな状態でしたから、レース展開なんて予想できなかったのですが、「暑くなってくれば上位の選手がバテ落ちてくる。それを少しずつ拾っていけば何とかそこそこの成績でいけるのでは…」と姑息なことも考えたけれど、天気は曇り時々雨、皆さんバテルどころか後にこんなに人がいたのかと驚くほど、気持ちよく抜いて行かれました。流石に、帰りの河端ASでは、受け応えもはっきりしなくなりましたが、無理せずのんびり歩いたりしていたせいか、平年よりも身体へのダメージは少なくて済みました。

その余った体力で、今年はず皆生海岸の水難事故を防止するため「皆生ライフセービングクラブ」を立ち上げ、皆生海岸の監視活動(決してのぞきではありません)を行っております。ご家族でお越しの際は、一声かけて下さい。



## ボランティアに参加して

皆生大会を振り返って 尼子 健

19回目を迎えた皆生の鉄人レースに、初めてボランティアとしてかかわった。その規模たるや、650名もの選手と約3000を数えるスタッフが参加しているのだから、「発祥の地」の名に相応しい。レース当日は数々の感動シーンがあったが、中でもリタイヤした選手がボランティアを申し出ていたのが印象的であった。ともあれ、長い1日を終えた充実感を例えるならば、185.195kmを完走したという感じであろうか。来年がまた楽しみである。

「すべてのひとに」 畠山 広幸

強く締まった、赤い鉄の肉体が走り抜ける。じっと前を凝視し、精神のはるかに高い昂揚から、自らの肉体に走りつづけることを命ずる。彼らが目指し、終点で手に入れるものは賞賛でも名誉でもなく、今日までひたすら鍛え上げた自分への誇りである。そのことに、私は恐れ打ちのめされる。走り去っていく汗の数にも、その気高さや強さにも。雨の中を、ひとりひとりが戦った。650人の鉄人たちと、彼らを取り巻くすべてのひとが戦ったのだ。私はこの日のことを一生忘れないだろう。



# 雨中の感動 選手・スタッフ

## 松岡 正高

### 【艱難辛苦】

今回ほど西部青年中央会のみなさんの応援を力強く思ったことはありません。7月10日(土)の総会の時までは、体調の不備で皆生大会を辞退するかしないかで迷っていましたが、壮行会で吹っ切れました。それから一週間、酒をやめ当日を向かえることが出来ました。

水泳スタート地点での長谷川郁君の激励文に感謝し大会が始まりました。スイムでは折り返し地点から波が出て体が揺られ気持ちが悪くなり、バイクでは、雨に濡れて寒さをおぼえ赤崎A、Sを折り返してすぐ後輪をパンクしガックリ、ゴールでは、予定時刻より10分早く着いたので、だれも迎えがなくさみしい思いをしました。今、大会を振り返ってみればよく出場でき生きて帰ってこれたと思います。これも、会員のみなさまの友情のおかげだと思っています。大会にスタッフ、ボランティアで帰ってきました会員のみなさんご苦労さまでした。



## 和田 健二

今大会ほど、最初から最後まで苦しかったレースはなかった。

今回で14回目の皆生大会への参加ではあったが、レース中大げさではないが本当に500回リタイヤを考えた。

何せ、練習不足と体の調整ミスの最悪の状態で参加してしまった自分に今は大いに反省しています。

最初のスイムでは折り返しを過ぎてから初めての波酔いになり、2種目のバイクでは折り返しの中山付近の横道で30分の仮眠をとってしまった。最後の種目のマラソンに入った時はすでに全ての体力を使い切った後で、ほとんど走る気力さえもなかったのは本音です。

しかし、スタート地点から西部青年中央会の皆様方の熱い声援をうけてしまったら行かないわけにはならず、5K、10Kと距離を少しずつ消化し、折り返しにたどり着いた時は、半分以上死んでいたと思う。人間の体は本当に不思議なもので暖かい声援に不思議に反応し、ついにはほろほろの和田健二をゴールまで運んでくれました。今回は本当に西部青年中央会の皆様方に完走をさせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。ほんとうにありがとうございました。今度皆様方には「体で返したい」と思っています。ありがとうございました。



## ボランティアに参加して

### ボランティアに参加して

### 影山 太一

高校生ボランティアをバスで送迎するお手伝いをした。早朝、生徒はなかなか現れない、欠席者もでる。バスで送る途中、自転車で行く人たちに、運転手が窓を開け声援するが、生徒は眺めただけ。眠っている者もいた。

午後、帰りのバス。力走するランナーを発見。私は「窓を開け応援しよう。」と言った。すると、(エッ!)一斉に窓が開き、「せーの、ガンバレ」。ランナーが笑顔で手を振った。生徒達の顔もほころんだ。心温まる一時だった。

### ボランティアに参加して

### 山城 克己

トライアスロンのボランティアに参加したのは今大会が初めてでしたので、最初は緊張していましたが、河崎A、Sで終日選手の応援をしている内に緊張も解けて、声援にも自然と力が入って行きました。最後のランナーが薄灯の中から走って来る姿には、本当に感動しました。この大会を通じて、ボランティアの大切さを痛感し、次回の大会からは、より多くの人に参加を呼びかけて行きたいと思います。参加者全員本当にお疲れ様でした。

## 第25回 鳥取県青年中央会総会開催

平成11年7月28日(水)、鳥取市のホテルニューオータニ鳥取に於て鳥取県中小企業青年中央会の第25回総会が開催された。

西部地区からの参加者は堀田会長、宮廻直前会長を始め副会長、各委員長、新入会員ら50名の参加となった。

会場の受付では東・中・西の各会員が顔を合わせ、久しぶりの再会に話が弾む場面も多く見受けられた。

総会は米村10年度県会長の挨拶に始まった。その中で会長は平成10年度の活動を振り返られ、次年度に期待する事として東・中・西の各中央会どうしの交流をより活発なものとし、中央会全体の更なる発展を強く希望すると締め括られた。

平成11年度の事業計画はその基本方針が『見直そうよ!「故郷・人・心!」』とし、具体的には(1)教育、(2)情報、(3)親睦、(4)交流、(5)懇談会開催、(6)中小企業

団体全国大会参加、(7)要望・提案の7つの事業を柱として活動を展開してゆく事になった。

引き続き役員改選が行われ、中部地区より水谷正弘氏が新県会長に選出され、新役員紹介があった。水谷新会長と新役員の方々には思う存分活躍していただき、鳥取県全中央会の「要」として頑張ってもらいたい。

通常総会閉会后、同会場に於て片山善博鳥取県知事をお招きし、「築こう!活力溢れる鳥取県」というテーマで講演が行われた。

知事のお話の要旨は「県政とは1にも2にも県民のために行われているべきであり、県民にとってもっと身近で、開かれた県政を実現したい。」という事であった。

講演に続き質疑応答の時間が設けられ、各々の質問に丁寧にわかり易く答えて下さる知事の姿からは鳥取県政変革の兆しが感じられ、何とも頼もしかった。

片山知事を満場の拍手でお送りした後、懇親会が行われ、この席上で「県会長の鍵」が水谷新会長へ引き渡され、力強く受け取られた。その後、会長の稱贈呈、アトラクションと和やかな雰囲気の中に県総会全日程を終了した。



## 創立25周年記念事業開催

平成11年7月10日(土)、「維(つなぐ) 25th Anniversary Act For Future」をスローガンに、鳥取県西部中小企業青年中央会創立25周年記念事業が来賓・OB・卒会者・現役員等多数参加のもと、米子市内で盛大に催された。

### 【第1部 通常総会】

ふれあいの里(米子市錦町)において定刻の13時より開催された第25回平成11年度通常総会(149名出席)では、記念事業を迎えるに当って宮廻会長より1年間の締めくくりの挨拶をされた。

決議事項に移り樋口副会長の議事進行のもと、第1号議案「平成10年度事業報告並びに収支決算承認の件」、第2号議案「平成11年度事業計画並びに収支予算書(案)承認の件」が満場一致にて可決された。

続いての表彰では、中央会活動における功績を称える特別功労賞として小原直前会長並びに秋田直前県会長への感謝状



### 【第2部 卒会式】

通常総会に引き続き14時より行われた平成10年度第24期卒会式では、壇上に登壇された今年度の卒会者11名の紹介、また直前会長として1年間に残られる宮廻会長により挨拶の後、卒会者ひとりひとりに卒会証書と記念品が授与された。

現役員を代表して堀田新年度会長による「さ・よ・お・な・ら」という先輩方への敬愛に満ちあふれた送辞に答え、卒会者を代表して秋田会員より中央会活動10年間を振り返った挨拶があり、尚、今年度の特別企画として、「卒会旗」贈呈式が催された。完全に立ち直った司会者の号令のもと、会員代表より卒会者代表の谷口会員へ卒会旗が手渡され、その際の挨拶では「ザビエルの会(第24期卒会者の会)」についても言及されたが、同会員の

神々しいお姿もこれで見納めかと名残りを惜しむ声があちこちで上がった。



### 〈第3部 分科会発表会〉

一般の方やプレスに開放したオープン発表会である「25周年特別企画 分科会発表会」が、照明がおとされたなかスポットライトを浴びる宮廻会長の「会員の手づくりによる各分科会の発表が今後の中央会、また将来に継っていく事業になって欲しい」というオープニングの挨拶でスタート。畑中実行委員長の「この企画を達成させる為に、各分科会、委員会メンバーの連日の活動への感謝とスローガン「雑(つなぐ) - Act For Future -」への思いを形にした」という説明に引き続き各分科会の発表に移った。

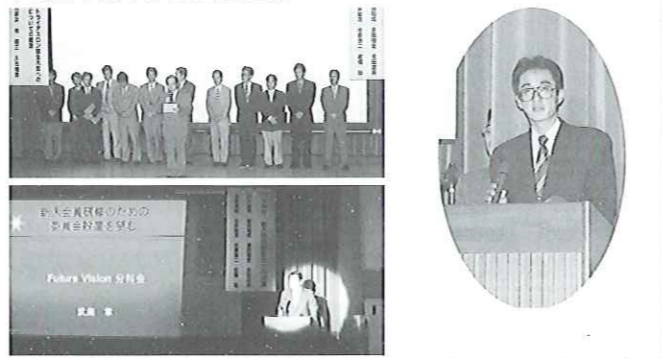
#### 【ビジネス交流分科会】

(担当委員会：経営・ビジネス交流・2020グランドデザイン)  
異業種間経営資源交流をテーマに、鳥取県と高知県を対比しながらの現状紹介や知事インタビュー。新しい時代に向けての2つの地域の交流の必要性を示唆。



#### 【FV分科会】(担当委員会：総務・広報)

会員意識アンケート調査結果を基に、「新入会員部会からの提言」「トライアスロン取組みについての提言」等、21世紀の青年中央会のありかたを探った。



#### 【地域合併分科会】(担当委員会：政治行政・地域ビジョン)

地域間競争を勝ち抜く為にをテーマに、鳥取県西部地区の広域合併問題について、その必要性、解決すべき問題点を具体的手法により検証した。



#### 【環境分科会】(担当委員会：21地球・げんこつ)

検証おやじのげんこつをテーマに、現在の家庭と昔の家庭について、会員による寸劇で対比表現しながら、地球環境と家庭、教育の問題を提言した。



各分科会の発表終了後、シャンソン歌手モンデンモモさんにより、25周年を記念して制作された中央会イメージソング「ルシエールブルー!! ~僕の心にできた長い路~」がお披露目された。

### 〈第4部 記念パーティー〉

分科会終了後「米子国際ホテル」に会場を移し、25周年を盛大に祝うべく懇親会が開催された。まず、開会に先立ちご来賓及びOB会員の皆さんを現役会員が拍手でお迎えした後、歌手モンデンモモさんによる「君が代」の斉唱が行われ、厳粛な雰囲気の中での開会となった。司会は岡本新年度総務委員長が担当した。

続いて綱領唱和後、堀田新年度会長が所信表明演説とも言える開会の挨拶を行った。年間活動テーマ「雑」を全面に出した内容の挨拶で、会長としての熱意と意欲を十二分に感じることができた。その後は永瀬正治OB会長代理、青戸新平中央会副会長のご祝辞の後、松田一三OBの音頭で乾杯が行われ、祝宴が本格的にスタートした。

宴会が始ると、場内はビールを持った現役会員がOB会員のテーブルを囲み、例年通りの和やかな雰囲気となった。その雰囲気の中、最初のアトラクション、モンデンモモさんの歌が披露された。途中から会長職のプレッシャーから解放された宮廻直前会長が舞台上で登場し、モモさんとデュエットを始めると場内からヤンヤの喝采が起きた。仕上げはモモさんと宮廻直前会長、畑中25周年委員長のトリオによる25周年記念イメージソングの合唱で会場は大いに盛り上がった。その後市



位直前副会長が、本会と交流の続いている高知県の特産品について得意の語り口で楽しく紹介した。最後に恒例のトライアスロン壮行会が行われ、松岡正高OB会員、和田健二OB会員、野島功会員、長谷川一成会員の4名の出場選手に、中央会が誇る名応援団中島太郎会員と新入会員が力強くエールを送った。

そして、予定の1時間40分が降り間に過ぎ去り閉会の時を迎えた。閉会は、高岡商工中金米子支店長がとっておきの締め挨拶「商」を披露された後、青年中央会の発展を祈念する万歳三唱で閉められた。

最後にご来賓、OB会員の皆様を会場よりお送りした後、本年度卒業生を一人一人肩上げて送り出し、懇親会は盛大の内に無事終了した。



# 特集 第19回全日本トライアスロン皆生大会

1981年53名の勇者でスタートした、トライアスロン皆生大会も19回を迎えた。本大会は650名(女子は79名過去最多)エントリーのもと、悪コンディションの中AM7:00選手、スタッフ、ボランティアのシナリオのない感動の一日のスタートが切っておとされ、雨天にもかかわらず、大過なく、PM10:00無事大会を終えた。

## 第19回全日本トライアスロン皆生大会を終えて

### ボランティア部 部長 原田 比登志



7月18日(日曜)あいにくの雨の中、第19回皆生トライアスロンが開催されました。西部青年中央会の会員の皆さん、河端・境三中A.S、本部関係ボランティア等本当にご苦労様でした。今大会では雨の中、大きな事故(小さな事故はあった)もなく無事終了できたことは、総勢3,300人のボランティアのおかげです。

皆生がトライアスロン発祥の地で、今回で19回目になるわけですが、ここまでやってこれたのも西部青年中央会の力があってこそです。ただ現在の実行委員も曲り角にきているようです。これからは青年中央会でこのすばらしいイベントを支えていけたらと個人的に思います。来年はいよいよ第20回の記念大会です。いまでは県内一番のじげおこしのイベントと思っています。私もボランティア部長としてボランティアの皆さんが楽しく参加できるように競技委員会等で議論してきましたが、まだまだ不備があるだろうとおもいます。これを一つ一つ解決し、この大会を絶やすことが無いよう、来年も多数ボランティアの方が楽しく参加しやすい大会を目指しておりますので、来年もよろしくお願いいたします。

とまかく今年ほんとうにご協力ありがとうございました。



### マラソン部 部長 後藤 秀之

トライアスロン19回大会を終えて、大会中大きな事故も無く終わってまずもって「ホッ」としています。

これまで入会と同時に第12回大会からお手伝いさせていただいてきましたが、今年は部長という大役の上に立ったということで色々な人と出会いが出来、大変良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。内心本当にできるのかな?と思いましたが諸先輩の方々にはげまされ、支えられ何とか無事終えることが出来ました。

また、やはり一番は各役員(西部青年中央会)の力です。昨年私は18回大会を経験していない為、忘れていた事や、新しい事を逆に教えていただいた役員の方、本当にありがとうございました。おつかれさまでした。

そして、今、今大会をふまえ来年20回大会に向けて行きたいと思っています。よろしくお願いいたします。



### 境港A.S



### 奥森 隆夫

第19回皆生トライアスロン大会が、7月18日(日)に悪コンディションの中開催されました。参加選手の皆さん、エイドステーションでのボランティア・OB・今年度卒業生(景川OB・玉木OB・足立(聡)OB)、現役会員の皆様御苦労さまでした。

今年度は境港地区担当の青年中央会の現役メンバーの人数が少なく、各ポイントの交代時間が長くなったり境港エイドステーション(第三中学校)での本部機能や活動が手薄になったり反省材料が多くあった、その中で中学生ボランティアの応援が選手の皆さんをどれほど勇気づけたことか計りきれないものでした。また会員の奥様、子供さん、OBの奥様、ソロプチの会の皆様には予定時刻を延長して頂きゴミの分別、片付け等を行っていただき大変に助かりました。その他にも、鳥取銀行、米子信用銀行境港支店の皆様にもポイントの補助、本部での補助など多くの事をお願いしたことを御礼申し上げ、改めて皆生トライアスロン大会が多くのボランティアの皆様を支えられて行われていることを実感し、感謝しております。ありがとうございました。P.S.マラソン部、ボランティア部の皆様、準備から撤去まで裏方の仕事!!本当に御苦労様でした。

### 河端A.S



### 樋口 一夫

エードの立ち上げに先立ち、宮廻直前、堀田会長に挨拶をいただき、10時に準備完了。エードの役割、ボランティアの心得を話し、通信部(NTT)の皆様と事故のないように一日楽しむことでスタートした。

高田副責任者、武海会員によって12か所のポイントにつくメンバーの整理。12時過ぎに最初の選手が入ってきて、さあ始まった。次々としてくる選手に大声でボランティアが応援する。声をかけられた選手は、必ず反応する。中には、来年の20回大会に出場したいので、特に今回は頑張るという選手もいた。

竹中会員はボランティアの食糧担当。皆、てきぱきと動いている。通信部にビールを差し入れたが、最後まで飲まなかった。横で作業を見ていたが、通過選手の確認と報告はピーク時には大変な作業である。氷水を作り、スポンジを渡す子供達。スイカを切り、おにぎりを渡し大声をあげる奥様方、楽しそう。

日が落ちて暗くなっても、あまり疲れを感じない。本当はボランティア皆疲れているだろうに…。最終ランナーを送り出し、撤収作業。河端水産様、東亜青果様、大変お世話になりました。また、総勢130名、会員(53名)、家族(20名)、企業(20名)のボランティアの皆様、ご苦労様でした。特に、中津尾副会長の音頭で扶翼会(周防収会長)の皆様37名もが参加され、大助かりでした。